

中学校 国語科 学習指導案

指導者 重永 和馬

日時 令和5年11月25日(土) 第1限 9:30～10:20
場所 第4研修室
学年・組 中学校3年B組 40人
単元 「百科事典少女」を読むー批評し合う学習活動ー
「百科事典少女」『新しい国語 3』(東京書籍)

目標

1. 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(知識及び技能 (1) ウ)
2. 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。(思考力、判断力、表現力等 C (1) イ)
3. 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

指導計画 (全7時間)

第一次 通読した後、問い作りの活動を行う。 1時間
第二次 問いの解決を図りながら、場面ごとに読む。 4時間
第三次 作品を批評し、お互いの批評文を読み合い、単元を振り返る。2時間 (本時 6/7)

授業について

本校高校生は、SSH の取り組みとして課題研究を行っている。課題研究では対話的な学びが多く取り入れられている。ポスター発表の場で行われる専門家、先輩や同級生との対話では、相手の優れている点を積極的に評価するやりとりと、質問応答が行われている。このやりとりは課題研究を深めることにつながっている。他の人との対話が、研究対象への新たな気づきや理解を深めること、つまり研究対象との対話につながっている。他者との対話から対象への対話へ、この繰り返しが課題研究の深まりにつながっている。

この課題研究の対話的な学びは、国語の授業にも通じるものだと考えている。他の学習者とのやりとりが教材文との対話の活性化や深まりにつながりうる。この点に着目して、研究授業を行いたい。具体的には、教材文を批評し、お互いの批評文を読み合うことで、教材文の理解を深める授業である。

「形」を「松山新介の勇将中村新兵衛が事」と読み比べて批評する学習を6月に行った。「俳句十句」(『現代の国語 3』三省堂)を読んで、批評文を書く学習を9月に行った。これらの批評の学習をふまえ、「百科事典少女」を批評する学習を行う。教科書の学習の手引きでは、作品の終わりの部分について批評する活動を取りあげている。また、批評するための手がかりとして、「もしも～～がなければ」という仮定の思考法を紹介している。まずは、学習の手引きに則って、作品の終わりの部分があることの効果を考え、お互いの批評文を読み合う活動を行う。その後、自分がこの作品で一番印象深いと感じる部分について、仮定の思考法を用いて批評し、その批評を読み合う活動を行う。

本授業を通じて、教材文を批判的に読む力、批評する力を身につけることが期待できる。加えて、他の人と関わることで学びを深められたという実感を得られることも期待している。

題 目 他の学習者の批評文を読むことで、新たな視点を得て、教材文の読みを深める。

本時の目標

1. 仮定の思考法を用いて、教材文を批評する。
2. 他の学習者の批評文を読む中で、新たな視点を得て、教材文の読みを深める。

本時の評価規準（観点／方法）

1. 仮定の思考法を用いて、教材文を批評しようとしている。
（思考・判断・表現／ワークシート）
2. 他の学習者の批評文を読む中で、新たな視点を得て、教材文の読みを深めようとしている。
（思考・判断・表現／ワークシート）

本時の学習指導過程

学習内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
〈導入〉 前時のふりかえりと、本時の学習内容の確認。 〈展開 1〉 最後の段があることの意味や効果について考える。	本時は、「百科事典少女」を批評し合う活動を行うことを確認する。 「もしもこの段がなかったら、私の読みにどのような変化が生じるか」という仮定の思考法を用いて、最後の段があることの意味や効果について考える。その上でペアを作って、互いの批評文を読み合う。数人を指名し、全体で共有する。	仮定の思考法を用いて、教材文を批評しようとしている。（思考・判断・表現／ワークシート） 他の学習者の批評文を読む中で、新たな視点を得て、教材文の読みを深めようとしている。（思考・判断・表現／ワークシート）
〈展開 2〉 「百科事典少女」の中で一番印象深いと感じる部分について、その部分があることの意味や効果について考える。	自分が一番印象深いと感じる部分をとりあげ、仮定の思考法を用いて、その部分があることの意味や効果について考え、ワークシートに書く。その上でペアを作って、お互いが選んだ部分と、その部分があることの効果や意味について批評文を読み合う。ペアの人の批評文を読むことで、文章についてどのような新たな気づきがあったかをワークシートに記入する。	仮定の思考法を用いて、教材文を批評しようとしている。（思考・判断・表現／ワークシート） 他の学習者の批評文を読む中で、新たな視点を得て、教材文の読みを深めようとしている。（思考・判断・表現／ワークシート）
〈まとめ〉 本時のまとめ。		
備考		

実践上の留意点

1. 授業説明

本実践では「もし〇〇がなければ～～」という仮定の思考法を用いて、「百科事典少女」を批評する活動を行った。この仮定の思考法は、文章の一節を仮にないものと想定することで、逆にその一節の持つ価値や効果を明らかにすること、つまり文章の批評活動につながる。また、「百科事典少女」以外の文章でも用いることのできる汎用性のある方法である。本時は前半が「ンゴマ」の一節を皆で批評する活動、後半がそこで身につけた思考法を用いて、各自が印象深いと思う一節を批評する活動という授業展開である。本時を通じて、文章最後の「ンゴマ」の一節と印象深い一節について批評することができた。本時の成果として、仮定の思考法を用いて、文章の批評活動を行うことができた点がある。一方で課題として残ったのは、最後の一節を批評するためには、文章全体の読み深めが必要だという点である。Rちゃんが自身が病であることを自覚しており、百科事典を最後まで読めない可能性があることに薄々気づいていたことへの読み深めが足りなかった。この点を押さえていれば、「ンゴマ」の一節の読みが生徒の中でより深いものになっていたはずであり、批評の活動がより深いものになったと考える。批評の活動そのものは成立したが、その深まりという点で課題が残った。

2. 研究協議

授業後の協議会で議論になったことのうち、三点について説明する。

一つめは、教材文の読みについてである。「ンゴマ」の百科事典の項目は、Rちゃんが読めなかった部分であり、お父さんが書き写した部分であり、私が後に読んだ部分であるという性格を持つ。「百科事典少女」はそのような重層的な部分を、作品最後に置いている。作品の最後に「ンゴマ」の一節があることで、三者の思いが重なることになる。この点を押さえた上での批評活動になっていなかった点が、課題として指摘された。批評活動は単元の最後に行うことが多かろうが、そうするとそれまでの読みがその活動に反映する。より深い批評活動のためには、指導者の教材研究の段階、単元展開時の指導者の働きかけが必要であった。

二つめは、主体的な学習についてである。本時の授業は、前半の「ンゴマ」の一節の批評活動が、後半の自分の印象に残った一節を取り上げて批評する活動へとつながるように構想した。これは主体的な学習につながることをめざしたからである。協議会では、主体的な学習は生徒に全てを任せるのではなく、指導者の何らかの働きかけの中ではじめて成立するという意見があった。この点で、前半が批評を身につける学習、後半が各自で批評する学習という展開は、主体的な学習態度の育成につながるものだったという指摘をいただいた。特に前半で批評活動に役立つ仮定の思考法を学んだことが、主体的な学習態度の育成に有効だと考えている。各学習活動を支える具体的な思考法やスキルがある場合、本時のような授業展開は有効である。

三つめは、批評活動についてである。本時の授業で批評を行う際、本文の一節の効果や価値を明らかにすることは行ったが、効果や価値をがあると判断する根拠を明確にさせることまではしていなかった。「〇〇をふまえると」という形で、本文を根拠として批評をさせた方が良いのではという指摘があった。今後、批評活動をする際には根拠として本文を明確におさえさせたい。